



Title	Political Ecology of Tin Mining : A Study on Marginalization of Coastal Resource Dependent Communities in Indonesia [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	ISMA, ROSYIDA
Citation	北海道大学. 博士(文学) 甲第12959号
Issue Date	2018-03-22
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/70296
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Isma_Rosyida_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

氏名：Isma Rosyida

主査 准教授 笹岡 正俊
審査委員 副査 教授 宮内 泰介
副査 教授 小田 博志

学位論文題名

Political Ecology of Tin Mining: A Study on Marginalization of Coastal Resource Dependent Communities in Indonesia

(すず採掘のポリティカル・エコロジー：インドネシアの沿岸資源に依存するコミュニティの周縁化に関する研究)

・当該研究領域における本論文の研究成果

サクシオン・ドレジャーを用いた海洋での大規模すず採掘がもたらす生態学的影響については自然科学の分野で一定の研究蓄積があるものの、それがもたらす地域社会への影響については、すず採掘の事業委許可にかかわる法制度を分析した研究や、すず採掘企業と地域住民の紛争を扱った NGO の調査レポートなど少数の先行研究があるのみで、いまだ十分に研究が行われているとはいえない。そうしたなか、本論文は、綿密なフィールドワークにより、大規模すず採掘事業の受け入れをめぐる村レベルの意思決定のプロセスと、大規模なすずの採掘がもたらす地域の人びとの暮らしの変化を微視的な視点から詳細に明らかにし、それをふまえて、今後の望ましい沿岸資源ガバナンスのあり方について政策的インプリケーションを提示している。まずはこの点を高く評価できる。

本論文の主要な研究成果は具体的には以下の 3 点である。

まず、大規模すず採掘事業の受け入れをめぐる村レベルの意思決定が、影響を受けるすべての人びとの実質的な参加のもとに行われていないことを明らかにした点が挙げられる。事業開始前に、採掘企業は住民たちと意見交換を行う協議会を開催するが、そこではすず採掘の負の影響について十分な情報提供は行われていなかった。沿岸漁業に従事する漁民の多くが採掘に反対であったが、彼／彼女らの意思決定に行使できる影響力は小さく、反対意見を持っているものほど、協議会への参加に消極的であり、採掘によって最も深刻な影響を受ける人びとが意思決定過程から締め出されていることを明らかにした。

次に、すず採掘事業のもたらす便益と被害が、漁業への依存度、漁法、他の生計手段の有無などの点で異なる住民間で不平等に配分されていることを明らかにした点である。具体的には、沿岸部で網を用いた漁業やバガン漁（竹や木材で作った構築物を海上に浮かべ、その下に網を沈め、集魚灯に魚を捕らえる漁）に従事する漁民にとって、すず採掘企業が提供する様々な便益（港湾整備や道路建設などのインフラ整備やロイヤリティの支払い）はさほど重要なものではなく、すず採掘がもたらす海洋汚染によって漁獲高が減少し、生計維持を困難にする深刻な被害を

受忍している状況を様々なデータから詳細に描いた。

最後に、以上明らかになったことを踏まえて、政策的インプリケーションを提示している点である。協議会への住民の実質的な参加を強化、すず採掘がもたらす環境的社会的影響に関する調査、村内の少数派の合意形成の便宜を図ったり、情報提供を行ったりする中間組織の育成などについて、今後求められるより社会的に公正な沿岸資源ガバナンスに向けた提言を行っている。

尚、本論文の内容の一部は、すでに査読付きの国際学術誌の論文として公刊されており、学界でも一定の評価を得ている。

・学位授与に関する委員会の所見

審査委員会は、上で述べた成果を高く評価し、本論文が博士学位論文の水準に達していることを認めた。しかし、次のような問題も指摘された。すなわち、第2章では広範な文献レビューにより、自然資源ガバナンスにかかわる先行研究の議論が詳細に整理されているが、本研究とのつながりが不明瞭な記述が含まれること、複数の章の内容に重複があること、今後の沿岸資源ガバナンスに向けた提言が、若干、具体性に欠けること、英語の表現に不明瞭な箇所が散見されることなどの問題である。尚、これらの問題については一部修正を求めた。

以上の問題点はあるものの、これらが本論文の価値を大きく損なうものではないことは審査委員会の一致した意見であった。

以上の審査結果から、本審査委員会は全員一致で Isma Rosyida 氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であるとの結論に達した。